

文学部公開講座 多彩なテーマで

金沢学院大学文学部の公開講座は七月十六日と二十三日に金沢市西町教育研修館、三十日に富山県高岡文化ホールでそれぞれ開かれ、日本文学科、国際文化学科の教員五人が文学作品にあらわれた女性像や日常のなかの心理学、宗教的な観点から見た文学の比較など多彩なテーマで講演しました。

江戸の女性



日本文学 山下久夫教授

井原西鶴の廊(くるわ)を舞台にした作品は、遊女と客が織り成す嘘の上に築かれた世界を通じて、人間の解放、人間の真実を追求する世界を描いた。『好色一代男』はその代表作である。「虚実皮膜(ひにく)の間」を唱えた近松門左衛門は、廊に理想を求めることができず、心中死のような悲惨な現実を基にして人間の真実を描いた。『心中天の網島』などは近松文学の深さが出た作品である。

明治の女性



日本文学 寺田智美講師

明治期は家父長制を温存する法律により、女性の社会的地位は史上最低だった。明治初めの女子就学率の低さ、男子中学に比べた女学校の圧倒的少なさには、読み書きそろばん以上の勉学は女子には望ましくないとする国家思想が表れていた。明治後期には、女子専門校の出現など「良妻賢母」を主眼とする女子教育熱は高まりを見せるが、女性が文章を書くことに對する偏見は根強かった。

ダイエット心理



国際文化 前川浩子助手

現実の体型は普通なのに、自分は太っていると評価する人の割合が高い。ミス・アメリカの優勝者が年々スリムになっているという事実、メディアの影響などで、「やせている方が魅力的だ」といった価値観がやせ願望を膨らませている。しかし、男性が最も魅力を感じる女性は適正体重で腰回りがくびれた体型であるとする研究もあり、男女間で体型の見方にズレがあるのは興味深い。

遠藤周作の文学



国際文化 槻木 裕教授

遠藤は十一歳でカトリックの洗礼を受けた。初期の

カウンセリング



国際文化 木場深志教授

カウンセリングは、個人的な問題の解決を目的とした援助のための面接であり、共感的な「聴く」過程が中心である。聴く時には、相手との距離、顔の高さ、視線、身体言語、声の調子などに注意すべきである。聴く技法としては、①促し②繰り返し③要約④解釈⑤共感⑥保証⑦質問がある。人の話には、事実、感情、結論(計画)の三要素があり、カウンセリングでは感情に中心を置く。

「海と毒薬」や「沈黙」では、キリスト教徒と対比して日本人の罪意識を描き、日本人の特異な精神風土を問うた。遠藤文学は宗教、文化の交差点であるが、実際に交わっていると思いつくのは危険である。遠藤のキリスト教は浄土教に似た部分があつて多分に日本的なものでしかなく、その上にキリスト教の神の文化が高架のようにすれ違っている可能性が十分ある。

楽しい部活動をアピール

東高校で中学生の学校見学会



石田校長の尺八も加わって
箏の演奏を披露する邦楽部員

金沢学院東高校の学校見学会は七月二十八日、校内で行われ、訪れた中学生と保護者ら約二百五十人が学校の特徴や入試方法の説明を受け、部活動を紹介するデモンストレーションを楽しみました。午後は体験入部も行われました。部活動紹介では、野球部が練習風景、吹奏楽部がマーチングの演技を披露し、邦楽部は石田毅士郎校長の尺八を交えて箏の演奏を披露したのをはじめ、応援団を含めて十五の部が活動ぶりをアピールしました。

米国の高校生と交流



別な懇談会
写真上
をいたしました。映画やスポーツなどの趣味や出身地の町の様子などを話題にし



が軽音楽ライブを披露しました。広坂庁舎で進学セミナーも開催されました。

発行・広報室